2025

SUPER GT
RACE REPORT

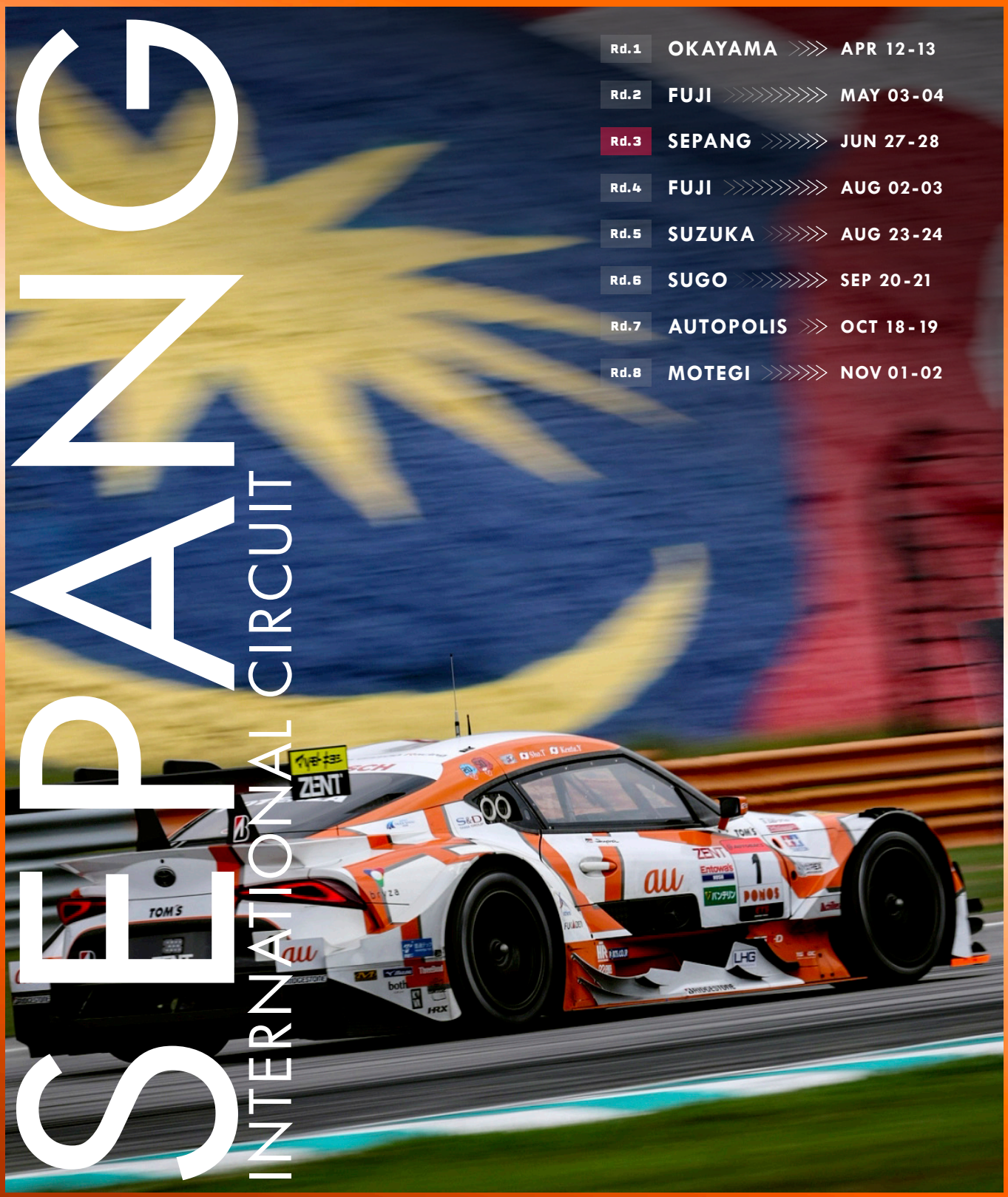
Rd.3 6.27[fri] - 28[sat]

[place] セパン・インターナショナル・サーキット（マレーシア セパン）

[weather] fri 晴れ／sat 曇り

[spectators] 75,977人（fri 28,524人／sat 47,453人）

SEPANG
INTERNATIONAL CIRCUIT



Rd.1	OKAYAMA	APR 12-13
Rd.2	FUJI	MAY 03-04
Rd.3	SEPANG	JUN 27-28
Rd.4	FUJI	AUG 02-03
Rd.5	SUZUKA	AUG 23-24
Rd.6	SUGO	SEP 20-21
Rd.7	AUTOPOLIS	OCT 18-19
Rd.8	MOTEGI	NOV 01-02

TOM'S

AUTOBACS SUPER GT 2025 SERIES

TOM'S

スタート直後の接触で最下位になるも、坪井と山下が粘り強く追い上げて、7位入賞を果たす。

2025 AUTOBACS SUPER GT Round3 SUPER GT MALAYSIA FESTIVAL 2025 が、6 月 27 日（金）、28 日（土）にマレーシアのセパン・インターナショナル・サーキットで行われた。#1 au TOM'S GR Supra（坪井翔／山下健太）は、70kgのサクセスウェイトを背負いながらも予選 8 番手を獲得。決勝ではスタート直後に接触を受けて一時は最後尾まで下がったが、粘り強く追い上げて 7 位に入り、ポイント獲得を果たした。

1

TGR TEAM au TOM'S

SHO TSUBOI 坪井 翔

KENTA YAMASHITA 山下 健太

Rd.3 Result

Qualifying	8 位	Driver Standings	1 位
Race	7 位	Team Standings	1 位

Qualifying 1	坪井：P10 ／ 1'51.702
Qualifying 2	山下：P8 ／ 1'51.064
Race ファステストラップタイム	坪井：1'55.267
	山下：1'55.784

TOM'S

QUALIFYING

天候：晴れ／気温：31℃／路面温度：37℃

12年ぶりのセパン大会。重いサクセスウェイトを搭載しながら、予選ではQ2進出で8番手につける。

今回の舞台となるセパン・インターナショナル・サーキットでSUPER GTが開催されるのは実に12年ぶり。走行経験がないドライバーやチームがいることを考慮し、26日（木）に公式練習のセッションが1つ追加された。ランキング首位につける1号車は、開幕3戦目にして70kgのサクセスウェイトを搭載し、燃料リストリクター制限が2段階目に入るなかでのレースとなり、厳しい戦いが予想された。また、冬のテストと比べて路面コンディションが芳しくないなか、2人のドライバーは状況にうまく合わせ込んでいき、初日の公式練習では7番手につけた。

予想以上の手応えがあり、チームの士気も高まるなか、Q1突破を目指し28日（金）の予選へ。僅差の戦いとなったが、坪井が1分51秒702を記録して10番手でQ1突破を果たした。続くQ2は山下が担当し、1分51秒064で8番手につけた。

Race

天候：曇り／気温：30℃／路面温度：38℃

スタート直後に接触を受け一時は最後尾に交代したが、粘り強い走りで追い上げ7位入賞。

曇り空のなかで始まったRound3の決勝レース。8番グリッドの1号車は坪井がスタートを務めた。混戦状態の第2コーナーで、後ろから他車に追突されて痛恨のスピン。これで最後尾まで後退を余儀なくされる。燃料リストリクター制限が入り、ストレートスピードが他車に劣るなか、コーナーが速くても前のライバルを追い抜けない状況が続いた。その中で順位を上げるべく、ピットストップを遅らせる作戦を選択。他車がピット作業をしている間に、一時は2番手に浮上。前方が開けたタイミングでは上位陣と遜色ないペースで走った。

31周目にピットインし山下に交代してピットアウトすると、8番手まで浮上。その後もペース良く周回を重ね、ライバルと激しいバトルを繰り広げたが、なかなか前に出るチャンスが巡って来なかった。それでも山下は意地を見せて残り3周のところでライバルを攻略し、7位でフィニッシュした。

TOM'S

正直ストレスが溜まるレース。悔しいです。

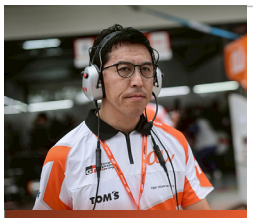
ドライバー　坪井　翔

燃料リストリクター制限が２段階も入っている状況で予選は最下位になってもおかしくないなか、８番手を獲得できたのは良かったです。決勝ではコース上で追い抜くのがかなり難しく、ピットストップを絡めて逆転していくしかない状況でした。それだけにスタート直後の接触が全てだったと思います。正直ストレスが溜まるレースでした。何事もなく走れていれば表彰台に乗れたレースだったので悔しいです。

最初の接触がなければ表彰台にいけた速さでした。

ドライバー　山下 健太

とにかく追い上げるしかない状況でしたし、そのために坪井選手が前半スティントを引っ張ってくれたので、タイヤ交換のタイミングが遅かった分、タイヤの状態は周りのクルマより良く、コーナーでは速さがありましたが、ストレートでは燃料リストリクター制限の影響で追い抜けない状況が続きました。最後に何とか１台を抜いて、さらにもう１台に迫っていきましたが、少し足りませんでした。



チーム監督　伊藤 大輔

今回は燃料リストリクター制限が２段階も入っているなか、予選からこれ以上にないパフォーマンスを発揮してくれています。ただ、ストレートスピードが遅くなる分、決勝では後ろから追い上げるのが難しい状態だったので、スタート直後のアクシデントで、より厳しい状態に陥りました。その後もドライバー２人にストレスがかかるシーンが続きましたが、そのなかで腐らずに追い上げて結果的に７位でポイントを獲得できるところまで挽回できたのはすごく良かったです。よく頑張ってくれたと思っています。

チームオーナー 舘　信秀

スタート直後の接触はレースなので仕方がないとはいえ、全体的なペースと内容をみると表彰台も狙えたと思うので、正直ストレスが溜まるレースでした。そんななかでも、坪井と山下が諦めずに追い上げて、最終的に７位まで挽回できたのは、凄いとしか言いようがないです。さすが、この２人だなと思いました。
今回は 37 号車が優勝して、シリーズランキングでは TOM'S がワンツーになりました。後半戦はどうなるか分かりませんが、この２台がチャンピオン争いをする姿が見られるのを楽しみにしたいです。
次戦も、たくさんの応援をよろしくお願いいたします。

au
KDDI
マッドネヨシ
ZENT
GR TOYOTA GAZOO Racing
TGR-DC TGR Driver Challenge Program
TGR-D
BRIDGESTONE
Entowa's NUSH
DRY ZERO ドライゼロ ALC.0.00%
Yi-Chiu Group
バンテリン
Happiness in Your Life 広島トヨペット
Deloitte.
MASEKI GEINOSHA
Achilles
TAMIYA
XREX
豊通テック
Valenti
uchino
bryza
HTECH RESIN
EDIFICE CASIO
MIYADERA VALVE
JAPAN TRUCK SHOW 2026
LHG
BRIDE
FUKUDEN
S&D TAMA GROUP
HRX
PARTS.CO.JP
ThreeBond
Mizuno
ENKEI
both.
KYOVA
MECHANIC WEAR